

小丸城(県史跡)(越前市五分市町)(常安楽院の隣)

小丸城(こまるじょう)は、福井県越前市にあった日本の城である。城跡は県の史跡に指定されている。

概要

鞍谷川によってできた味真野の扇状地の丘陵に、野々宮廃寺跡の一部を取り込んで築城された平城である。本丸、土塁、堀跡、城門跡、隅櫓跡などが残る。昭和7年(1932年)には城跡より前田利家による一向一揆勢の処刑の様子が記されているという瓦の破片が出土している。

歴史

越前国で起こった一向一揆を収めた織田信長が、府中10万石あまりを府中三人衆に治めさせた。命を受け、三人衆の佐々成政が1575年に、築城を開始したが、1581年に成政は、越中国に移封され、6年余りで廃城となる。城が未完であった可能性も高い。

Wikipediaによる

